審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	乙 第 2915 号	氏名	力武 美子
審査担当者	主 査 森岡基浩 (印) 副主査 足達 寿 (印) 副主査 上野高史 (印)		

主論文題目：Cerebral Micro bleeds in Coronary Artery Disease Patients during Antiplatelet Therapy
（抗血小板療法中の冠動脈疾患患者における脳微小出血）

審査結果の要旨（意見）

本論文は、抗血小板療法中の冠動脈疾患患者の脳出血のリスクの指標として頭部MRIのT2*(ティーツースター)画像でみられるCerebral Microbleeds（CMBs:脳微小出血）に着目し、経時的に観察を行った唯一の研究である。本研究の結果、抗血小板療法中の冠動脈疾患患者では、他の一般健常高齢者での研究の結果と比較して、より高率にCMBsがみられ、CMBsがみられた群では観察期の血圧コントロールが不良であり、冠動脈病変がより重度であった。本研究結果から、重度の冠動脈病変を有し血圧コントロールが不良な患者は、抗血小板療法中のCMBs発生の高リスク群であり、より厳重な血圧管理が必要であることが示された。本症例は14症例と症例数が少なく観察期間も短いため、今後さらに長期間の大規模な観察研究に期待したい。

論文要旨

頭部MRIのT2*（ティーツースター）画像でのCMBs(Cerebral microbleeds;脳微小出血)は脳出血の予測因子である。DAPT中の冠動脈疾患患者におけるCMBsの経時的変化について前向き研究を行った。2012年3月～10月の8ヶ月間に当科で冠動脈造影を行った連続14症例に対し、登録時と約8ヶ月後に頭部MRI検査を行い、冠動脈病変の重症度および血圧とCMBsとの関係を評価した。結果、14例中2例に登録時にCMBsがあり、フォロー時に新たに2例にCMBsの出現を認め、14例中合計4例にCMBsを認めた。CMBsを有する群は有さない群と比較し冠動脈病変数が有意に多く(p=0.04)、Syntax scoreも高い傾向（p=0.06）がみられた。さらに、両群間で登録時血圧には有意な差はみられなかったが（p=0.94）、フォロー時血圧はCMBsを有する群のほうが有意に高かった（収縮期；p=0.03,拡張期；p=0.02）。重度の冠動脈病変を有し血圧コントロール不良な患者は、抗血小板療法中のCMBs発生の高リスク群である。したがって抗血小板療法施行中の冠動脈疾患患者では、厳重な血圧管理が必要である。